

1. 研究課題名：D-1003 野生動物保護管理のための将来予測および意思決定支援システムの構築

2. 研究代表者氏名及び所属：
坂田宏志（兵庫県立大学自然・環境科学研究所）



3. 研究実施期間：平成 22～24 年度

4. 研究の趣旨・概要

全国的にシカやイノシシなどの野生動物による被害が深刻化し、適切な保全と管理が求められています。

その中で、都道府県が策定する特定鳥獣保護管理計画は重要な役割を果たしています。

本研究では、計画の策定と実施に必要な情報収集や状況把握、要因分析などの手法を確立し、意思決定や合意形成のための指標や将来予測などの情報コンテンツを開発します。

さらに、これをパッケージ化し、データ管理からレポート作成までを行うソフトウェアを構築します。

標準的な手法を確立して自動化することで、ある程度の専門家の支援で都道府県の行政担当者が運用可能なものを目指します。

このようなシステムの構築によって、企画・立案能力の向上や、運用の効率化、達成度評価の標準化など、都道府県における野生動物の保全と管理の全体的な能力向上を目指します。

5. 研究項目及び実施体制

- ① モニタリング項目と手法の開発（三重県農業研究所）
- ② データ分析手法の確立（兵庫県立大学）
- ③ 意思決定支援コンテンツの開発に関する研究（大阪府環境農林水産総合研究所）
- ④ 支援ソフトウェアパッケージの開発に関する研究（株式会社ブレイン）

6. 研究のイメージ

現状

野生動物問題の深刻化

予想以上に困難な課題解決

- 絶滅の危惧や個体数の増加
- 深刻化する被害

- 減らない被害、
- 科学的な裏付けの不足

適切なデータ分析による
意思決定システムの開発

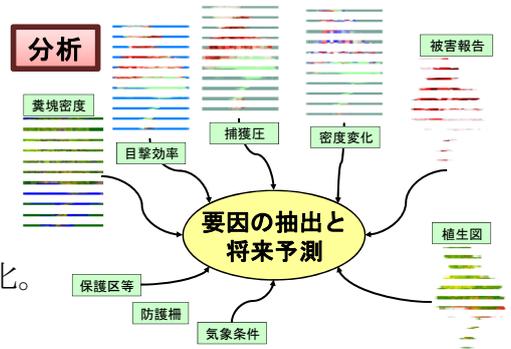
目的

都道府県の保全と管理を適切行うため、
データ収集から意思決定までの、
一貫したシステムを構築。

状況把握

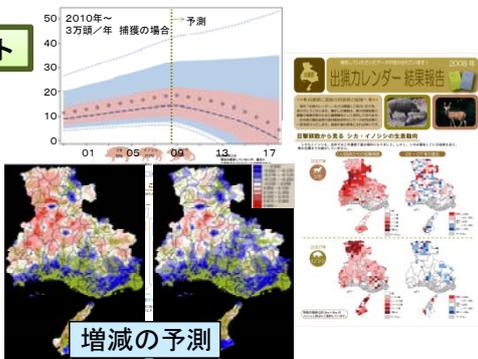


都道府県の実態をふまえ実施可能な調査手法の標準化。

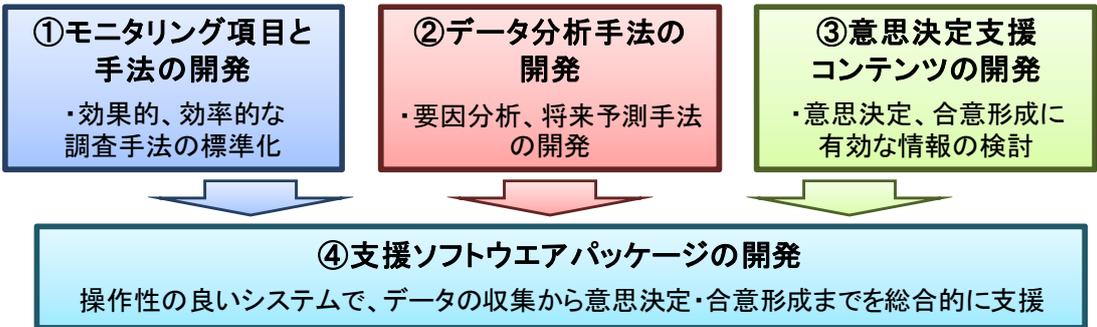


要因分析や将来予測の手法を開発し、自動化。

レポート



意思決定のための詳細なレポート作成と、
合意形成のためのわかりやすいレポート
などの作成を半自動化。



都道府県における野生動物の保全と管理の能力向上